

第2次与謝野町総合計画後期基本計画素案に対する意見・本町の考え方・計画への反映

No.	分野	ご意見要旨	本町の考え方	計画への反映			
				反映する	反映済み	今後の参考とする	反映しない
1	分野7	ジェンダー平等に関する施策がないのが気になる。基本施策や施策からは読み取れない。	○ 分野7・基本施策2・施策①「男女共同参画社会の推進と多様な性への理解の促進」の中で、ジェンダー平等に関する施策を推進していきます。		○		
2	分野7	若者・女性・子育て世代と定義されていますが、まちづくりの参画機会は障害者等にも広く社会的弱者全般に積極的参画を促していくことが望ましいと思いますし、まちづくりの参画において「若者・女性・子育て世代」というカテゴリーを明確にすることで、むしろその当該当事者が参画しづらくならないでしょうか。	○ 住民の皆様との対話や総合計画審議会での議論の中で、「若者・女性・子育て世代」というキーワードが出ましたが、対象を限定しているわけではございません。 ○ ご意見のとおり、まちづくりの参画機会は広く設ける必要がございます。分野7・基本施策1・施策③「対話と協働によるまちづくりの仕組みづくり」を進めていく際の貴重なご意見として参考にさせていただきます。			○	
3	分野7	町の職員の方と個人的にお話をさせてもらう機会がありましたが、まちづくりに「関心がある層」と「関心がない層」がきれいに分けられるとおっしゃられていました。この構図が大きく変わらない限りは、一部のまちづくりに関心がある熱心な特定の人によってのまちづくりになりかねないと危惧しています。それが町民の目に見えてしまっていることも、さらに町民のまちづくりへの無関心を誘発させてしまっているのではないのでしょうか。	○ まちづくりアンケート結果などを見ると、まちづくりに対する住民の皆様意識や関心は決して高いといえませんが、地域課題に対して当事者意識を持って行動できる人材の育成を進め、多様な主体が関わりながらまちづくりをしていくことが必要と認識しております。 ○ 貴重なご意見として承ります。				○
4	分野7	正直、身内感や内輪感が強いまちづくりコミュニティになってしまっているように感じるところもあります。どんな広聴プロジェクトを仕掛けても、「町は積極的で活発な特定の人声のみを聞かす」という姿勢として捉えられ、「関心がない層」の方々は「意見するに値しない」と声を出すことをためらってしまうのが現状ではないでしょうか。不満を抱きながらもなにも言うことなくこの町を去ってしまっている人も少なからずいるのが現状ではないかと思っています。審議会等のメンバーは一定の特定の人が目立つのも気がかりです。	○ 分野7・基本施策1に掲げておりますとおり、「多様な主体による協働のまちづくりの推進」をしてまいります。多様な方々にご参加いただけるよう努めてまいります。 ○ 施策を進めていく際の貴重なご意見として参考にさせていただきます。			○	
5	分野7	令和4年度のまちづくりアンケートも拝見させていただきましたが、半ばあきらめな感じの声が目立つように思います。わたくしもあるごとに意見をさせて頂いていますが、改めて聞きたいです。総合計画というのは計画の策定だけに過ぎないのでしょうか。意見を聞いて計画を作り、また意見を聞いて計画を作るところばかりが目立ち、その計画をもとにどのように遂行しているのかがあまり見えていないのではないかと思います。令和4年度のまちづくりアンケートには以前、わたくしが意見した内容と重複する別の町民の方の意見もあり、問題意識を持っている町民は一定の共通認識の上での問題意識を持っているということを実感しました。重複して寄せられている声については町としても重く受け止めて取り組んでいたきたいです。	○ 総合計画は、住民の皆さまと行政が共有する「まちづくりの設計図」です。行政が策定するすべての計画の最上位に位置づけられるものでもあり、総合計画に沿って行政運営を行っております。 ○ 一方で、ご意見のとおり、進捗が見えないことに対するご意見を頂戴することも多く、課題となっております。そのため、本計画においては、各分野に掲げる具体的な施策について、毎年度その進捗を見ることのできる指標を設定することとしております。PDCAによる評価検証を行いながら着実な成果につなげるとともに、分野7・基本施策4「見える・聞こえる・言えるまちづくり」に掲げておりますとおり、広報強化に努めてまいります。 ○ 住民の皆様からいただきましたご意見は真摯に受け止め、施策立案や施策の改善等に生かしてまいります。		○		
6	分野7	都市部との大きな違いというのはやはり行政が非常に身近な存在ということであり、わたくし自身も障害福祉サービスの利用者の一人でもあるなかで、生きづらさの問題に行政で足りない点は当事者自らが補うということが望ましいと自助の取り組みも個人的に地域でやってきました。よりよいまちにしていけるためには自分ごととしてまちづくりから目を背けるのではなく、むしろ向き合っていかなければならないと思い、意見させて頂くことにしました。わたくしとしても、そういう自分ごととしてまちづくりに向き合う町民を増やしていきたいです。これからの町政とまちづくりのために何かしらお役に立てれば幸いです。	○ ご意見のとおり、様々な地域課題に対して当事者意識を持って行動できる人材の育成を進め、多様な主体が関わりながらまちづくりを推進していくことが重要と認識しており、分野7・基本施策1に掲げておりますとおり、「多様な主体による協働のまちづくりの推進」をしてまいります。 ○ 貴重なご意見として承るとともに、今後とも町政の推進にご協力いただきますようお願いいたします。		○		
7	分野7	今までの概念を取っ替えた、従来の市町村ではない、新たな枠組みでの行政コミュニティ、インフラといったまちを国や京都府、近隣市町等に働きかけ、共に一から住民などと作ることで、それはもう、与謝野町という単位のまちではないかもしれませんが、車がないと暮らしていけない地域で、自動運転の車で安心して暮らせるまちなどの未来のまちをいち早く実現させていくには、まちの設計を一から作っていくことも必要であり、故に既存のまちでは実現し得ないこともどんどん受け入れていくことで新たな発展もできると思います。まずは、既存のまちからの脱却が必要ではないでしょうか。そのためには、今がその大きな転換期かつ正念場であり、ラストチャンスではないのでしょうか。	○ 分野7・基本施策3・施策④「広域連携の検討・推進」において、北部5市2町それぞれの強みや個性を生かした連携と協力により、役割分担と機能強化を図りながら相互に補完し合い、地域経済や社会に関する共通課題に対応することで住民の皆様生活に必要な機能を確保してまいります。また、圏域外の市町との交流・連携も推進し、政策立案などを強化してまいります。		○		
8	全体	持続可能性とは言いますが、今後、町をどう仕舞うかという問題に直面しているのが正直なところではないでしょうか。町じまいというのも現実味を帯びてきています。だからこそ、あたかも与謝野町がこれからも続くような机上の空論の総合計画でなく、ある程度見通されており、その想定を上回る少子化と過疎化の波が来ているという現実をしっかりと受け止め、大胆な町じまいの方向に舵を切っていく計画の策定と取り組みが必要で現実的ではないでしょうか。	○ 国立社会保障・人口問題研究所による本町の人口推計（平成25年3月推計）を見ると、令和7年（2025）には2万人を切り、令和22年（2040）には15,000人程度になると予測されていますが、合計特殊出生率や社会増減がある程度改善したシナリオで推計した結果をもとに、本町では、令和42年（2060）以降に「16,000人」前後で人口が落ち着く「おおむね維持」を長期的目標として掲げております。 ○ ご意見の「町じまい」に舵を切るのではなく、人口減少化においても、持続可能なまちをつくるため、本計画に掲げる施策を推進してまいります。				○

第2次与謝野町総合計画後期基本計画素案に対する意見・本町の考え方・計画への反映

<div>9</div>	<div><div>分野2</div><div>分野5</div><div>分野7</div></div> <div><p>「美心与謝野構想」</p><p>一、基本理念 美の感性豊かな生活空間の創造</p><p>①行動指針 美の感性とは美意識です、美意識は思想です、生きる暮らしの「規範」です。規範とは、「判断基準」であり「行動基準」であります、美意識のない政治は常に「彷徨う」。</p><p>②意思の決定 与謝野に住んで美の感性ゆたかな文化田園都市をつくり、その思想を世界に発信し、与謝野を訪れる世界の人々が眞の日本文化を体験し楽しめるように。</p><p>二、環境整備（地域地勢戦略）</p><p>①文化庁関連施設の誘致 二〇二三年三月には、文化庁が京都に移転し業務を稼働開始する。</p><p>イ、文化庁の京都北部丹後分室を誘致建設する。（与謝野町庁舎考慮）</p><p>ロ、日本海文化観光学術研究都市の建設</p><p>京都府南部の「けいはんな学研都市」を参考に建設して京都の南北均衡ある発展と更なる価値の創造に努め山陰北陸日本海ベルトを日本文化発信の表玄関に位置付ける。</p><p>日本海側の文化観光環境整備は、日本列島東西均衡ある発展に寄与し、海の京都DMOの方針にも適い、未来志向の地方創生の姿であり、中核地域として与謝野の発展は大いに期待される。</p><p>三、日本海文化観光学研都市の内容</p><p>①参加地域 石川県、福井県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県</p><p>②日本文化観光伝承振興会館建設</p><p>イ、絹と和装の館</p><p>●歴史と物産展示室</p><p>●シルク商品研究開発室</p><p>●シルク成分分析研究室</p><p>ロ、観光館</p><p>●「眞の文武と徳」の迎賓館</p><p>●美意識を育てた日本の代表的な伝統文化である「和装文化」と「日本海食の文化」展</p><p>●体験道場 装道、茶道、華道、書道、詩歌、弓道、相撲、柔道、等々。</p><p>ハ、アジア館</p><p>●日本とアジア諸国の「文化、観光の歴史現状」を展示</p><p>●中国山東省との文化交流友好活動の促進</p><p>●日本文化と東洋思想の研究と発信 禅、徳、和、平等・利他、自然、「眞、善、美」、等の精神、歴史。</p><p>③関連企業、及び団体の誘致</p><p>●丹工、織り金、淡交会、池の坊、海の京都DMO、丹海、丹鉄、大学高校、近隣自治体</p><p>四、与謝野町将来ビジョン策定</p><p>①夢と希望の百年戦略</p><p>イ、デジタル田園都市設計 行財政大改革。行政、教育のDX化の加速。</p><p>ロ、脱炭素、温暖化対策の速急な計画 太陽光、風力、水力利用促進計画</p><p>ハ、女性、若者を重視した「与謝野町ビジョン会議」の設立。</p><p>五、構想の実現に向けて</p><p>①三百年の絹和装文化を育てた歴史と、あなたの美の感性が「美心与謝野」構想を実現します。</p><p>②丹後の民俗文化を継承し、未来志向の「AI」「DX」社会を見据えて、優れたリーダのもとで、「眞、善、美」に合う意思決定が為された時、「平和な、楽しい、希望の町」が見えてきます。</p><p>③美意識は代替することが極めて困難で、育てることも一筋縄ではいきません。美は思考や哲学を内包します、新しい価値を生み出すには「アート」的思考も重要です、丹後の人々はそうした美の感性の中で歴史をかさねてきました、奈良時代の調羹としての「あしぎぬ」、鎌倉時代の「丹後精好」記した書物等が在るように、伝統と歴史の中で育ち生きて来ました。令和の今日【千載一遇、きたりて、好機】みんなで『美心与謝野構想』を実現しましょう。</p></div>	<div><p>○「文化観光」については、分野2・基本施策2「まちの魅力を生かした観光振興」、分野5・基本施策5「文化財の継承と活用」の中で推進してまいります。</p><p>○「デジタル田園都市」については、国において「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂し策定された「デジタル田園都市国家構想総合戦略」をふまえ、分野7・基本施策3・施策③「デジタル社会の実現」及び「重点プロジェクト」として推進してまいります。</p><p>○「脱炭素、温暖化対策」については、分野6・基本施策1・施策①「脱炭素社会の実現」として推進してまいります。</p><p>○ そのほか多数いただきますご提言については、貴重なご提案として承ります。</p></div>	<div></div>
--------------	--	---	-------------